

発表業績 (1979~1988)

1) 学会等発表 微生物課

題 名	学 会 名	会 期	会 場	発 表 者 ( 講 演 者 ○ 印 )	抄 録 掲載ページ
ラテックス凝集反応を用いたブドウ球菌エンテロトキシンの検出	第26回福岡県公衆衛生学会	1979. 5. 31	福岡県看護等研究研修センター(福岡市)	○小田 隆弘・永井 誠 大久保忠敬・西本 幸一 大丸健之助	
ブドウ球菌エンテロトキシンEの精製	〃	〃	〃	○永井 誠・小田 隆弘 大久保忠敬・西本 幸一	
腸炎ビブリオの増菌培地の検討並びに既存培地との比較試験	〃	〃	〃	○大久保忠敬・小田 隆弘 永井 誠・西本 幸一 大丸健之助・田中 恭生	
海外旅行者を対象とした細菌学的検索成績	〃	〃	〃	○馬場 純一・磯野 利昭 真子 俊博・永原 公一 西本 幸一・大丸健之助	
腸炎ビブリオの増菌培地の検討並びに既存培地との比較試験	第38回日本公衆衛生学会総会	1979. 10. 17 ~19	新潟県建設会館(新潟市)	○大久保忠敬・小田 隆弘 永井 誠・西本 幸一 大丸健之助・田中 恭生	
食品におけるブドウ球菌の増殖とエンテロトキシン産生	第27回福岡県公衆衛生学会	1980. 5. 26	福岡県看護等研究研修センター(福岡市)	○小田・隆弘・永井 誠 大久保忠敬・西本 幸一 大丸健之助・北原 郁也	所報6号 106
福岡市内河川・博多湾および市販さしみにおけるいわゆるNAGビブリオの検出状況	〃	〃	〃	○小田 隆弘・永井 誠 大久保忠敬・西本 幸一 大丸健之助	〃 106
各種食品, ヒト, 河川水, 海水等における <i>Bacillus cereus</i> の分布	〃	〃	〃	○永井 誠・小田 隆弘 大久保忠敬・西本 幸一 大丸健之助・北原 郁也	〃 106
市販食品におけるブドウ球菌の増殖とエンテロトキシン産生態度	第39回日本公衆衛生学会総会	1980. 10. 29 ~31	千葉県労働福祉センター(千葉市)	○小田 隆弘・永井 誠 大久保忠敬・西本 幸一 大丸健之助・北原 郁也	〃 106
ラテックス凝集反応法を利用したブドウ球菌エンテロトキシン簡易型別法の検討	第33回日本細菌学会九州支部総会	1980. 11. 13 ~14	熊本共済会館五峯閣(熊本市)	○小田 隆弘	〃 107

題 名	学 会 名	会 期	会 場	発 表 者 ( 講 演 者 ○ 印 )	抄 録 掲載ページ
寄生虫検査にみられた蠕虫類と赤痢アメーバの検査例について	第6回九州衛生公害技術協議会	1981. 2. 5 ～6	葉がくれ荘 (佐賀市)	○真子 俊博・磯野 利昭 西本 幸一	所報6号 107～108
サルモネラ2種とビブリオFグループ(EF-6)が検出された一食中毒事例について	第28回福岡県公衆衛生学会	1981. 5. 22	福岡県看護等研修センター (福岡市)	○永井 誠・小田 隆弘 大久保順子・西本 幸一	所報7号 158
市販食肉・原乳・河川水・井水および健康人からの <i>Campylobacter jejuni</i> の検出状況	〃	〃	〃	○大久保順子・小田 隆弘 永井 誠・西本 幸一	〃 158
ラテックス凝集反応を用いた毒素原性大腸菌易熱性毒素(LT)の検出	〃	〃	〃	○小田 隆弘・永井 誠 大久保順子・西本 幸一	〃 158
河川水調査による腸チフス保菌者の検索	〃	〃	〃	○磯野 利昭・真子 俊博 西本 幸一	〃 158～159
最近経験した赤痢アメーバ検出事例について	第34回日本寄生虫学会南日本支部大会	1981. 11. 7 ～8	熊本市九電ホール (熊本市)	○真子 俊博・赤羽 啓栄 杉野 俊一	〃 159～160
逆受身ラテックス凝集反応法による毒素原性大腸菌易熱性毒素(LT)の検出	第34回日本細菌学会九州支部総会	1981. 11. 12 ～13	はかた会館(福岡市)	小田 隆弘	〃 160
エンテロトキシンの検出について	第7回九州衛生公害技術協議会	1982. 2. 24 ～25	博多シティーホテル(福岡市)	小田 隆弘	〃 160
過去10年間のパラチフスB菌のファージ型と生化学性状について	〃	〃	〃	馬場 純一	第7回協議会資料
抗一毒素原性大腸菌易熱性毒素(LT)特異抗体を用いた逆受身ラテックス凝集反応法によるLTの検出	第55回日本細菌学会	1982. 4. 7 ～9	日本都市センター (東京都)	小田 隆弘	所報8号 164

題 名	学 会 名	会 期	会 場	発 表 者 ( 講 演 者 ○ 印 )	抄 録 掲載ページ
福岡市における腸管寄生原虫類の調査成績	第31回日本臨床衛生検査学会	1982. 5. 8 ～9	福岡市民会館 (福岡市)	真子 俊博	所報8号 164
毒素原性大腸菌2血清型が検出された韓国帰り集団下痢症例	第49回日本感染症学会西日本地方会	1982. 6. 4	佐賀医科大学	○小田 隆弘・磯野 利昭 中川 英子	〃 164
黄色ブドウ球菌エンテロトキシン検出法—特に市販キットの応用と問題点	第3回衛生微生物協議会	1982. 7. 8 ～9	仙台市民センター (仙台市)	小田 隆弘	〃 164
中国産ドジョウの顎口虫寄生状況	第35回日本寄生虫学会南日本支部大会	1982. 10. 9 ～10	宮崎県医師会館 (宮崎市)	○真子 俊博・赤羽 啓栄 岩田久寿郎・宮崎 一郎	〃 165
市販食肉, 生カキ, 貝柱, 市内河川水及び井水からの毒素原性大腸菌の分離	第41回日本公衆衛生学会総会	1982. 10. 27 ～29	大手門会館 (福岡市)	○中川 英子・小田 隆弘 磯野 利昭	〃 165
河川水, 海水および魚介類からの <i>Vibrio fluvialis</i> (Group F <i>Vibrio</i> ) の分離	〃	〃	〃	○磯野 利昭・小田 隆弘 中川 英子	〃 165
原因食から神奈川現象陽性株が検出された腸炎ビブリオ食中毒および神奈川現象陰性腸炎ビブリオ食中毒事例	第16回腸炎ビブリオシンポジウム	1982. 11. 24 ～25	徳島厚生年金会館 (徳島市)	○磯野 利昭・小田 隆弘 中川 英子・原田 秀昭	〃 166
市販食肉, 生カキからの <i>Campylobacter jejuni</i> / <i>coli</i> および毒素原性大腸菌の検出	第44回日本食品衛生学会	1982. 11. 25 ～26	ガーデンパレス (福岡市)	○小田 隆弘・中川 英子 磯野 利昭	〃 166
昭和57年度の福岡市におけるインフルエンザの流行について	第8回九州衛生公害技術協議会	1983. 2. 24 ～25	みやざき会館 (宮崎市)	○赤司 英雄・梶原 一人	〃 166～167
輸入ドジョウにおける顎口虫の幼虫の寄生状況調査	第30回福岡県公衆衛生学会	1983. 5. 25	福岡県看護等研修センター (福岡市)	真子 俊博	

題 名	学 会 名	会 期	会 場	発 表 者 ( 講 演 者 ○ 印 )	抄 録 掲載ページ
顎口虫症における酸素抗体法	第36回日本寄生虫学会南日本支部大会	1983. 8. 30 ~31	産業医科大学 (北九州市)	○赤羽 啓栄・真子 俊博	所報9号 104
赤痢菌、毒素原性大腸菌 <i>Vibrio cholerae</i> non-O1の混合感染がみられた韓国旅行者集団下痢症	第52回日本感染症学会西日本地方会	1983. 12. 9	那覇市民会館 (那覇市)	○真子 俊博・中川 英子	〃 104
輸入熱帯魚からのNAGビブリオ検索	第9回九州衛生公害技術協議会	1984. 2. 8 ~9	パシフィックホテル沖繩 (那覇市)	真子 俊博	
昭和58年度の福岡市におけるインフルエンザの流行について	〃	〃	〃	○赤司 英雄・梶原 一人	
調理鮮魚介類の衛生 1市販刺身の実態と腸炎ビブリオによる食中毒について	第31回福岡県公衆衛生学会	1984. 5. 22	福岡県看護等研究研修センター (福岡市)	○磯野 利昭・大隈 英子 大久保忠敬	所報10号 106
4種血清型 <i>V. parahaemolyticus</i> が分離された海外旅行者下痢症例	〃	〃	〃	○村尾 利光・西本 幸一 真子 俊博	〃 106
輸入熱帯魚からの non-O1 <i>Vibrio cholerae</i> の分離状況と分離菌の性状について	第53回日本感染症学会西日本地方会	1984. 5. 25	北九州市役所 (北九州市)	真子 俊博	〃 106
4種血清型 <i>V. parahaemolyticus</i> が分離された海外旅行者下痢症例	第43回日本公衆衛生学会	1984. 11. 1 ~2	大阪府立労働センター (大阪市)	村尾 利光	〃 106
輸入淡水魚におけるビブリオ属の汚染状況	第26回日本熱帯医学会総会	1984. 11. 23 ~24	鹿児島県看護研修会館 (鹿児島市)	真子 俊博	〃 107
奄美大島産アカマタより得られたドロレス顎口虫幼虫	第37回日本寄生虫学会南日本支部大会	1984. 11. 23 ~24	長崎大学医学部 記念講堂 (長崎市)	○真子 俊博・赤羽 啓栄	〃 107

題 名	学 会 名	会 期	会 場	発 表 者 ( 講 演 者 ○ 印 )	抄 録 掲載ページ
断端構造による顎口虫の分類 (予報)	第37回日本寄生虫学会南日本支部大会	1984. 11. 23 ~24	長崎大学医学部 記念講堂 (長崎市)	○赤羽 啓栄・真子 俊博 佐野 基人	所報10号 108
昭和59年度の福岡市におけるインフルエンザの流行について	第10回九州衛生公害技術協議会	1985. 2. 14 ~15	熊本郵便貯金会館 (熊本市)	○梶原 一人・赤司 英雄 大隈 英子	〃 108
魚介類における病原ピリオの分布	〃	〃	〃	○磯野 利昭・梶原 一人 大久保忠敬	〃 108
過去6年間の福岡市における海外旅行者下痢症の病原微生物検出状況	第59回日本感染症学会総会	1985. 5. 9 ~11	那覇市民会館 (那覇市)	○真子 俊博・村尾 利光 磯野 利昭・大隈 英子	所報11号 123
魚介類における病原ピリオの分布	第32回福岡県公衆衛生学会	1985. 5. 20	福岡県看護等研究研修センター (福岡市)	○磯野 利昭・梶原 一人 大久保忠敬・大隈 英子	〃 123
昭和59年度の福岡市におけるインフルエンザの流行について	〃	〃	〃	○梶原 一人・赤司 英雄 大隈 英子	〃 123
ミドリガメ (ペット) が感染源となったパラチフスBの家庭内感染	〃	〃	〃	○村尾 利光・真子 俊博 西本 幸一	〃 123
魚介類における病原ピリオの分布	第44回日本公衆衛生学会	1985. 10. 16 ~17	富山県民会館 (富山市)	磯野 利昭	〃 123
ドロレス顎口虫 <i>Gahthostoma doloresi Tubangui</i> 1925の発育史について	第17回成長談話会大会	1985. 11. 3	筑波研修センター (筑波学園都市)	○赤羽 啓栄・真子 俊博	第17回成長談話会 大会抄録
アメーバ症診断の際の検査方法と問題点	第55回日本感染症学会西日本地方会	1985. 11. 15 ~16	長崎県医師会館 (長崎市)	真子 俊博	所報11号 124
海水、河川水から検出された <i>V. cholerae</i> non-O1の毒素産生性	第55回日本感染症学会西日本地方会	1985. 11. 15 ~16	〃	○渡部 高貴・真子 俊博 村尾 利光	〃 124
ブタ糞便内ドロレス顎口虫卵を対象とした数種集卵法の比較	第38回日本寄生虫学会南日本支部大会	1985. 11. 16 ~17	佐賀医科大学臨床大講堂 (佐賀市)	○真子 俊博・赤羽 啓栄	〃 124

題 名	学 会 名	会 期	会 場	発 表 者 ( 講 演 者 ○ 印 )	抄 録 掲載ページ
剛棘顎口虫の第3前期幼虫をブタに与えた実験	第38回日本寄生虫学会南日本支部大会	1985. 11. 16 ～17	佐賀医科大学臨床大講堂 (佐賀市)	○赤羽 啓栄・真子 俊博	所報11号 125
博多湾のコレラ菌汚染例	第11回九州衛生公害技術協議会	1985. 11. 28 ～29	ガーデンパレス (福岡市)	○真子 俊博・渡部 高貴 大庭三和子・村尾 利光 磯野 利昭・大隈 英子 佐藤 泰敏・楠本 五郎	〃 125
ミドリガメ(ペット)が感染源となったパラチフスBの家庭内感染事例と福岡市内で販売されているミドリガメのサルモネラ保菌状況	〃	〃	〃	○村尾 利光・真子 俊博 西本 幸一	〃 123
食中毒患者からのO-1 V. cholerae の分離	〃	〃	〃	○磯野 利昭・大隈 英子 大久保忠敬	〃 125
昭和59年の福岡市におけるインフルエンザの流行概要	〃	〃	〃	○梶原 一人・赤司 英雄 大隈 英子	〃 123
福岡市における住民の日本脳炎中和抗体調査成績	第33回福岡県公衆衛生学会	1986. 5. 23	福岡県看護等研究研修センター (福岡市)	○梶原 一人・松隈 慶子 村上 直海	所報12号 172
昭和60年の福岡市におけるインフルエンザの流行について	〃	〃	〃	○松隈 慶子・梶原 一人 村上 直海	〃 172～173
過去6年間に当所へ依頼があったアメーバ赤痢の検査結果について	〃	〃	〃	○真子 俊博・渡部 高貴	〃 173
福岡市における Shigella sonnei の集団発生例 1. 南区を中心に発生した集団赤痢	〃	〃	〃	○村尾 利光・真子 俊博 渡部 高貴・大庭三和子 佐藤 泰敏	〃 173
福岡市における Shigella sonnei の集団発生例 2. 博多区, 東区に発生した集団赤痢	〃	〃	〃	○渡部 高貴・真子 俊博 村尾 利光・大庭三和子	〃 173

題 名	学 会 名	会 期	会 場	発 表 者 ( 講 演 者 ○ 印 )	抄 録 掲載ページ
井戸水からのエロモナス 検出状況	第33回福岡県公 衆衛生学会	1986. 5. 23	福岡県看護等研 究研修センター (福岡市)	○大庭三和子・真子 俊博 村尾 利光・渡部 高貴	所報12号 173～174
赤痢アメーバ症における 免疫学的検査法の比較と 診断上の問題点	日本感染症学会 中日本地方会	1986. 10. 18	大阪府医師会館 (大阪市)	真子 俊博	〃 174
昭和60年度の福岡市にお けるインフルエンザの流 行概要	第12回九州衛生 公害技術協議会	1986. 11. 27 ～28	ひびき荘 (北九州市)	○松隈 慶子・梶原 一人 村上・直海	〃 172～173
井戸水のAeromonasにつ いて	〃	〃	〃	○大庭三和子・真子 俊博	〃 173～174
河川水、海水から検出さ れた <i>V. cholerae</i> non- O1 の毒素産生性	〃	〃	〃	○渡部 高貴・真子 俊博 村尾 利光	〃 174
最近1年間に福岡市で経 験した赤痢の3集団事例	〃	〃	〃	○真子・俊博・渡部 高貴 大庭三和子・村尾 利光 佐藤 泰敏	〃 174
最近1年間に福岡市で経 験した <i>Shigella sonnei</i> の3集団事例	第45回日本公衆 衛生学会総会	1986. 11. 29 ～31	仙台共済会館 (仙台市)	真子 俊博	〃 174
赤痢アメーバの検査法を 中心に—その他下痢症か ら検出される原虫類の動 向—	第36回日本臨床 衛生検査学会	1987. 5. 2 ～3	鹿児島市民文化 ホール (鹿児島市)	真子 俊博	所報13号 174～175
6種血清型が混在した腸 炎ビブリオ食中毒事例	第34回福岡県公 衆衛生学会	1987. 5. 19	福岡県看護等研 究研修センター (福岡市)	○梶原 一人・村上 直海 大久保忠敬・光来 真弓 大坪 道隆・青木 勤	〃 173
福岡市における5歳未満 の日本脳炎中和抗体保有 状況	〃	〃	〃	○馬場 純一・松隈 慶子	〃 173
1986年度におけるインフ ルエンザウイルス分離お よび血清学的検査成績	〃	〃	〃	○松隈 慶子・馬場 純一	〃 173

題 名	学 会 名	会 期	会 場	発 表 者 ( 講 演 者 ○ 印 )	抄 録 掲載ページ
輸入淡水魚からの <i>Aeromonas, Plesiomonas</i> 検出状況	第34回福岡県公衆衛生学会	1987. 5. 19	福岡県看護等研究研修センター(福岡市)	○渡部 高貴・真子 俊博 大隈 英子・大庭三和子 村尾 利光	所報13号 174
最近増加してきた赤痢アメーバ検出状況	〃	〃	〃	真子 俊博	〃 174
輸入淡水魚からの病原ビブリオ検出状況	〃	〃	〃	○大隈 英子・真子 俊博 渡部 高貴・大庭三和子 村尾 利光	〃 174
剛棘顎口虫幼虫のブタへの感染実験	第40回日本寄生虫学会南日本支部大会	1987. 10. 10 ~11	大分医科大学臨床大講堂(大分市)	○堀内 伸二・真子 俊博 赤羽 啓栄	〃 175
福岡市における5歳未満の日本脳炎中和抗体保有状況	第46回日本公衆衛生学会総会	1987. 11. 18 ~20	長崎県医師会館(長崎市)	馬場 純一	〃 173
輸入淡水魚からの <i>Aeromonas, Plesiomonas</i> 及び病原ビブリオ検出状況	〃	〃	長崎県薬剤師会館(長崎市)	大隈 英子	〃 175
6種血清型が混在した腸炎ビブリオ食中毒事例	第13回九州衛生公害技術協議会	1987. 11. 26 ~27	城山会館(鹿児島市)	○梶原 一人・村上 直海 大久保忠敬	〃 173
福岡市における日本脳炎の流行状況	〃	〃	〃	○馬場 純一・松隈 慶子	第13回九州衛生公害技術協議会「日本脳炎研究会」資料
1986年度におけるインフルエンザの流行について	〃	〃	〃	○馬場 純一・松隈 慶子	所報13号 173
補体結合反応によるアメーバ症診断評価と梅毒陽性者のアメーバ抗体保有状況	〃	〃	〃	○渡部 高貴・真子 俊博	〃 173~174
輸入淡水魚からの <i>Aeromonas, Plesiomonas</i> 及び病原ビブリオ検出状況	〃	〃	〃	○渡部 高貴・真子 俊博 大久保忠敬	〃 174



題 名	学 会 名	会 期	会 場	発 表 者 ( 講 演 者 ○ 印 )	抄 録 掲載ページ
海水浴場水域におけるふん便性大腸菌群測定法の検討	第35回福岡県公衆衛生学会	1988. 5. 12	福岡県看護等研修センター (福岡市)	○梶原 一人・村上 直海 大久保忠敬	所報14号 140
日本脳炎ワクチン未接種児における中和抗体保有状況	〃	〃	〃	○馬場 純一・門司 慶子	〃 140
1987年度におけるインフルエンザ流行について	〃	〃	〃	○馬場 純一・門司 慶子	〃 140
糞線虫を含む3種の寄生虫が検出された1事例	〃	〃	〃	○渡部 高貴・真子 俊博	〃 140
徳之島産のアカマタに多数検出されたドロレス顎口虫幼虫	〃	〃	〃	○真子 俊博・渡部 高貴	〃 140～141
赤痢アメーバ染色法(コーン, 鉄ヘマトキシリン, トリクローム)の比較	〃	〃	〃	○真子 俊博・渡部 高貴	〃 141
血清学的反応によるアメーバ症の評価	〃	〃	〃	○渡部 高貴・真子 俊博	〃 141
過去5年間の海外旅行者における病原微生物検出状況	〃	〃	〃	○大庭三和子・真子 俊博 大隈 英子・渡部 高貴 村尾 利光	〃 141
福岡市における過去3年間の伝染病発生状況(特に赤痢について)	〃	〃	〃	○大隈 英子・真子 俊博 渡部 高貴・大庭三和子 村尾 利光	〃 141
女子大寮におけるサルモネラ食中毒事件	第14回九州衛生公害技術協議会	1988. 11. 17 ～18	セントヒル長崎 (長崎市)	○梶原 一人・村上 直海 大久保忠敬	〃 140
1987年度におけるインフルエンザ流行について	〃	〃	〃	○馬場 純一・門司 慶子	〃 140
最近の福岡市における赤痢の動向と生ウニへの添加回収実験	〃	〃	〃	○真子 俊博・渡部 高貴 大隈 英子・村尾 利光	〃 142

理化学課 学会発表

題 名	学 会 名	会 期	会 場	発 表 者 ( 講 演 者 ○ 印 )	抄 録 掲載ページ
従属栄養細菌の生長を利用した河川の富栄養化度の測定	第26回福岡県公衆衛生学会	1979. 5. 31	福岡県看護等研究研修センター(福岡市)	○高野 昭男・吉武 和人 藤本 和司	
水質モニターの保守管理について	〃	〃	〃	○林 清人・西原 美子	
改良ランキン法を用いた食品中の残存SO <sub>2</sub> の分析について	全国衛生化学技術協議会	1979. 10. 2 ～ 3	〃	○近藤 久幸・藤本 喬 永田 昌江・金堂 和生	所報5号 114
富栄養化現象による二次汚濁について	〃	〃	〃	○吉武 和人・藤本 和司 高野 昭男	
従属栄養細菌の生長を利用した海域の富栄養化度の測定について	〃	〃	〃	○高野 昭男・藤本 和司 吉武 和人	
水質モニターの保守管理について	〃	〃	〃	○西原 美子・林 清人	
ケイ光灯破損時における環境中への水銀の放出について	九州山口薬学大会	1979. 10. 26 ～27	熊本市民会館(熊本市)	椿 美代子	
MBOD法による富栄養化度の測定	第6回環境保全・公害防止研究発表会	1979. 12. 4 ～ 5	中央合同庁舎第4号館(東京都)	○高野 昭男・藤本 和司 吉武 和人	
合成抗菌剤の高速液体クロマトグラフィーによる分析法について	九州衛生公害技術協議会	1980. 2. 7 ～ 8	つるみ荘(別府市)	○山崎 哲司・広中 博見 金堂 和生・山本 泰寛	
浄化槽放流水中の残留塩素の検出法について	第27回福岡県公衆衛生学会	1980. 5. 26	福岡県看護等研究研修センター(福岡市)	○佐々木康江・広中 博見	所報6号 106
博多湾における栄養塩負荷と溶存酸素の関係	第7回環境保全公害防止研究発表会	1980. 12. 18 ～19	環境庁(東京都)	吉武 和人	〃 107

題 名	学 会 名	会 期	会 場	発 表 者 ( 講 演 者 ○ 印 )	抄 録 掲載ページ
従属栄養細菌の活性を利用した環境水域の富栄養化の判定	第6回九州衛生公害技術協議会	1981. 2. 5 ～6	葉がくれ荘 (佐賀市)	○高野 昭男・藤本 和司 吉武 和人	所報6号 108
住宅におけるシロアリ防除剤(クロルデン)の使用状況について	第28回福岡県公衆衛生学会	1981. 5. 22	福岡県看護等研究研修センター (福岡市)	○林 清人・藤本 喬 佐藤 泰敏	所報7号 159
底泥中のビタミンB <sub>12</sub> の定量	〃	〃	〃	○吉武 和人・石橋 俊雄 山本 泰寛	〃 159
食品中の臭素酸カリウム分析上の問題点について	第18回全国衛生化学技術協議会年会	1981. 10. 1 ～2	新潟県土地改良会館 (新潟市)	○古野 善久・近藤 久幸	〃 159
底泥中のビタミンB <sub>12</sub> の定量	第40回日本公衆衛生学会	1981. 10. 28 ～30	愛知県歯科医師会館(名古屋市)	○吉武 和人・西田 政司	〃 159
福岡市における防錆剤の使用状況について	第7回九州衛生公害技術協議会	1982. 2. 24 ～25	博多シティーホテル(福岡市)	○須佐 幹二・佐藤 泰敏 山本 泰寛	〃 160
藻類培養試験による博多湾の富栄養化調査	〃	〃	〃	○吉武 和人・西田 政司	〃 160
福岡市河川水中の直鎖型アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(LAS)の定量	第41回日本公衆衛生学会	1982. 10. 27 ～29	農協会館 (福岡市)	大隈 俊之	所報8号 165
河川水が博多湾の富栄養化に与える影響と底質からの溶出が藻類増殖に及ぼす効果	第9回環境保全公害防止研究発表会	1982. 11. 30 ～12. 1	環境庁 (東京都)	○西田 政司・吉武 和人	〃 166
福岡市に流通する食品中の残留農薬検出事例	第8回九州衛生公害技術協議会	1983. 2. 24 ～25	みやざき会館 (宮崎市)	○中村 正規・藤本 喬 林 清人	
三点比較式臭袋法による悪臭調査の予備実験	〃	〃	〃	○小寺 信・西原 美子 井上 哲男	〃 167
乾海苔におけるマラカイトグリーンの微量分析法について	第30回福岡県公衆衛生学会	1983. 5. 25	福岡県看護等研究研修センター (福岡市)	○尾崎 博・広中 博見	
博多湾のMBAS測定に関する考察	第9回九州衛生公害技術協議会	1984. 2. 8 ～9	バシフィックホテル沖縄 (那覇市)	○高野 昭男・藤本 和司 西田 政司・大隈 俊之	所報9号 104

題 名	学 会 名	会 期	会 場	発 表 者 ( 講 演 者 ○ 印 )	抄 録 掲載ページ
藻類の内部生産による有機汚濁量の推定	第31回福岡県公衆衛生学会	1984. 5. 22	福岡県看護等研究研修センター(福岡市)	西田 政司	所報10号 106
FQキャピラリーカラム直結GC-MS (QP1000)による食品添加物・農薬及び家庭用品等の同定確認の実例について	第21回全国衛生化学技術協議会年会	1984. 9. 27 ~28	山口県教育会館(山口市)	○広中 博見・中村 正規	〃 107
アイスクリーム類の脂肪について	第10回九州衛生公害技術協議会	1985. 2. 14 ~15	熊本郵便貯金会館(熊本市)	久保倉宏一	〃 108
Skeletonema chostatumの各態窒素, りんの利用能について	第32会福岡県公衆衛生学会	1985. 5. 20	福岡県看護等研究研修センター(福岡市)	○高田 文子・西田 政司	所報11号 123
福岡市内に流通する鶏卵・鶏肉等の抗菌性物質の検査状況	第11回九州衛生公害技術協議会	1985. 11. 28 ~29	ガーデンパレス(福岡市)	古野 善久	〃 125
食品中のビタミン分析法について	〃	〃	〃	久保倉宏一	〃 125~126
富栄養化海域での主成分分析等の解析	〃	〃	〃	古川 滝雄	〃 126
ビル受水槽に混入した白蟻駆除剤によるビル給水系統の汚染状況とその消長	福岡県公衆衛生学会(第33回)	1986. 5. 23	福岡県看護等研究研修センター(福岡市)	中村 正規	所報12号 174
主要な底生水生昆虫, 幼虫による那珂川の水質評価	〃	〃	〃	古川 滝雄	〃 175
野菜類における亜硫酸塩の使用状況と鮮魚からの亜硫酸検出例	第12回九州衛生公害技術協議会	1986. 11. 27 ~28	ひびき荘(北九州市)	桃崎 悦子	〃
1. 1-ジクロロエチレン, 1. 2-ジクロロエタンの定量について	〃	〃	〃	松原 英隆	〃
那珂川における底生動物の出現状況	〃	〃	〃	古川 滝雄	〃 175~176

題 名	学 会 名	会 期	会 場	発 表 者 ( 講 演 者 ○ 印 )	抄 録 掲載ページ
たかな漬における漬込液と可食部とのソルビン酸濃度差について	第23回全国衛生化学技術協議会	1986. 10. 2 ～ 3	長崎県総合福祉センター (長崎市)	○藤本 喬・古野 和之	所報12号 175～176
那珂川における底生動物の出現状況	環境保・公害防止研究発表会 (第13回)	1986. 12. 4 ～ 5	環境庁 (東京都)	古川 滝雄	〃
水及び95%メタノール溶離液によるゲルクロマトグラフィー特性	水質汚濁学会 (第21回)	1987. 3. 10 ～12	東京農工大学工学部 (東京都)	松原 英隆	〃 176
高速液体クロマトグラフィーによるストリキニーネの分析法	第34回福岡県公衆衛生学会	1987. 5. 19	福岡県看護等研究研修センター (福岡市)	中村 正規	所報13号 175
底生動物による瑞梅寺川の水質評価	〃	〃	〃	古川 滝雄	〃 176～177
処理水における分子量分布について	〃	〃	〃	松原 英隆	〃 177
F T D - G C による米中カーバメート系農薬の分析法	第13回九州衛生公害技術協議会	1987. 11. 26 ～27	城山会館 (鹿児島市)	中村 正規	〃 175～176
分光光度計を用いた野菜漬物中許可タール色素の簡易定量法	〃	〃	〃	○桃崎 悦子・藤本 喬	〃 176
底生動物による福岡市内河川(那珂川及び瑞梅寺川)の水質評価	〃	〃	〃	古川 滝雄	〃 176～177
高速液体クロマトグラフィーによるテトロドトキシン検出法とその応用	〃	〃	〃	○小田 隆弘・中西 和道	〃 176～177
高速液体クロマトグラフィーによるストリキニーネの分析法	第53回九州山口薬学大会	1987. 10. 17 ～18	電気ビル (福岡市)	中村 正規	〃 175
高速液体クロマトグラフィーによるテトロドトキシン検出法とその応用	〃	〃	〃	○小田 隆弘・中西 和道	〃 176

題 名	学 会 名	会 期	会 場	発 表 者 ( 講 演 者 ○ 印 )	抄 録 掲 載 ペ ー ジ
河川水中の有機物のゲルクロマトグラフィーにおよぼす無機塩の影響	第22回水質汚濁学会	1987. 3. 17 ～19	昭和大学 (東京都)	松原 英隆	所報13号 177
XAD-8樹脂を用いたゲルクロマトグラフィー	第35回福岡県公衆衛生学会	1988. 5. 12	福岡県看護等研究研修センター (福岡市)	松原 英隆	所報14号 143
畜産物中の抗菌性物質の残留調査-飼料添加物ナイカルバジンについて-	〃	〃	〃	大石 義也	〃 142
主成分分析法によるアイスクリームの類別	〃	〃	〃	久保倉宏一	〃 142
リン酸ジフェニル2-エチルヘキシルの食品への移行事例について	〃	〃	〃	中村 正規	〃 143
アジの唐揚げによるヒスタミン食中毒事例について	〃	〃	〃	○小田 隆弘・中西 和道	〃 143
可視検出器を用いた高速液体クロマトグラフ法による食品中の全エリソルビン酸の測定	第14回九州衛生公害技術協議会	1988. 11. 17 ～18	セントヒル長崎 (長崎市)	木内 佳伸	〃 142
福岡市内河口の底生動物調査	〃	〃	〃	○古川 滝雄・小野 英樹	〃 143
リン酸ジフェニル2-エチルヘキシルの食品への移行事例について	第47回日本公衆衛生学会総会	1988. 9. 20 ～22	北海道厚生年金会館 (札幌市)	中村 正規	〃 143
合成抗菌剤ナイカルバジンの微量摂取時における鶏卵中への残留と消失	第56回日本食品衛生学会	1988. 11. 17 ～18	静岡県立中央図書館レクチャールーム (静岡市)	大石 義也	〃 142
環境水中のブリリアントブルーFCF分析方法の開発	水質汚濁学会	1989. 3. 16 ～18	立命館大学 (京都市)	○松原 英隆・江崎 光洋	〃 143

## 2) 論文発表

### (1) 学会誌等発表論文 微生物課

題 名	著 者	雑 誌 名	巻 (号)	頁	年
毒素原性大腸菌 2 種血清型が同時に検出された海外旅行者集団下痢症例	小田 隆弘・磯野 利昭 中川 英子	感染症学雑誌	57 (2)	180~185	1983
鶏卵及び屠畜腎からの残留抗生物質簡易検査法としての隔膜ディスク法	小田 隆弘	食品衛生学雑誌	24 (4)	423~428	1983
剛棘顎口虫 <i>Gnathostoma hispidum</i> Fedchenko, 1872 の生活史に関する研究 第 1 報 ドジョウ寄生の第 3 期幼虫の脊椎動物に与えた実験	赤羽 啓栄・岩田久寿郎 真子 俊博・宮崎 一郎	寄生虫学雑誌	32 (5)	459~464	1983
中国産輸入ドジョウの剛棘顎口虫寄生状況	赤羽 啓栄・真子 俊博	寄生虫学雑誌	33 (6)	59~513	1984
食品中のエンテロトキシン産生黄色ブドウ球菌の迅速簡易検査法	小田 隆弘	食品衛生学雑誌	26 (5)	405~410	1985
奄美大島のアカマタに多数見出されたドロレス顎口虫 <i>Gnathostoma doloresi</i> 幼虫	真子 俊博・赤羽 啓栄	寄生虫学雑誌	34 (6)	93~499	1985
輸入顎口虫症の病原体—虫体断端構造による寄生虫体の同定—	赤羽 啓栄・真子 俊博 山本 悦子・金田 尚子	昭和60年度科学研究費補助金(総合研究A) 研究成果報告書		59~66	1985
剛棘顎口虫 <i>Gnathostoma hispidum</i> Fudtschenko, 1872 の生活史に関する研究 第 2 報 ドジョウ寄生の第 3 前期幼虫を直接ブタに与えた実験	赤羽 啓栄・真子 俊博	寄生虫学雑誌	35 (3)	161~164	1986
Morphological Difference in Cross Section of the Advanced Third-stage Larvae of <i>Gnathostoma spinigerum</i> , <i>G. hispidum</i> and <i>G. doloresi</i>	AKAHANE Hiroshige SANO Motohito MAKO Toshihiro	The Japanese Journal of Parasitology	35 (5)	465~467	1986
食品中のエンテロトキシン産生黄色ブドウ球菌の簡易検査法の開発とその応用	小田 隆弘	メディアサークル	32 (3)	41~49	1987

題名	著者	雑誌名	巻(号)	頁	年
Morphological Features of "Large-Type" Laval Gnathostoma in Loaches, from Mainland China	Hiroshige AKAHANE Toshihiro MAKO	Jpn. J. Parasitol	36 (6)	424~426	1987
糞便内原虫検査—特に赤痢アメーバについて—	宮原 道明・真子 俊博	検査と技術	16 (11)	1269~1274	1988

### 理化学課

題名	著者	雑誌名	巻(号)	頁	年
藻類生産の潜在力 (AGP) 測定による博多湾における富栄養化の評価	吉武 和人・西田 政司	水質汚濁研究	6 (5)	293~299	1983
富栄養化海域での藻類の消長と環境因子の関係	西田 政司・高野 昭男 小寺 信・藤本 和司 吉武 和人	用水と廃水	26 (9)	955~964	1984
室内培養した藻類のN/P値から推定した博多湾の制限栄養塩	西田 政司・高野 昭男 藤本 和司	水質汚濁研究	8 (3)	181~183	1984
含硫化合物が <i>Prorocentrum minimum</i> の増殖におよぼす効果	西田 政司・高田 文子	生態化学	8 (2)	3~6	1985
古いスナック菓子による食中毒	小田 隆弘・尾崎 博	食品衛生学雑誌	27 (5)	589~590	1986
キャピラリーカラム直結型GC/MSを利用した食品分析の紹介	中村 正規	島津科学器械 ニュース	27 (2)	14~21	1986
<i>Asterionella glacialis</i> の有機態窒素・リンの利用能	高田 文子・西田 政司	生態化学	9 (1)	3~6	1986
下水処理中の有機物のゲルクロマトグラフィーにおよぼす無機塩の影響	松原 英隆・精松 洋一	水質汚濁研究	11 (12)	783~789	1988
輸入缶詰食品中のスズおよび重金属の定量結果 (第1報) —輸入缶詰食品の流通実態およびスズの検出量ならびに相関性—	大石 義也・近藤 久幸 藤本 喬	食品衛生研究	39 (3)	49~61	1989



## (2) 所報掲載論文 微生物課

題 名	著 者	号	頁	年
1979年度福岡市におけるA・H1,A・H3型インフルエンザの流行とウイルスの抗原分析並びに血清疫学	馬場 純一・永原 公一	5	49～54	1980
各種食品, ヒト, 河川水, 海水等における <i>Bacillus cereus</i> の分布	永井 誠・小田 隆弘 大久保忠敬・西本 幸一	〃	62～65	〃
新しく考案した腸炎ビブリオ増菌用培地と既存の増菌培地との比較試験	大久保忠敬・小田 隆弘 永井 誠・西本 幸一 大丸健之助・田中 恭生	〃	66～71	〃
新しい腸炎ビブリオ増菌培地における腸炎ビブリオおよびビブリオアルギノリチカスの消長について	大久保忠敬・小田 隆弘 永井 誠・西本 幸一 大丸健之助・吉武 和人 田中・恭生	〃	72～74	〃
福岡市内河川・博多湾および市販さしみにおける, いわゆるNAGビブリオの検出状況	小田 隆弘・永井 誠 大久保忠敬・西本 幸一	〃	75～80	〃
各種市販食品および培地中における食中毒由来ブドウ球菌の増殖とエンテロトキシンA産生態度の一例	小田 隆弘・永井 誠 大久保忠敬・西本 幸一 北原 郁也	〃	81～95	〃
環境 (S. 54年度) 及びヒト (S. 52～54年度) 由来サルモネラの血清型と薬剤耐性	磯野 利昭・真子 俊博 馬場 純一・西本 幸一	〃	55～58	〃
寄生虫検査にみられた蠕虫類と赤痢アメーバの検出例について	真子 俊博・磯野 利昭 西本 幸一	〃	59～61	〃
1980年度におけるA・H1型インフルエンザの流行とウイルスの抗原分析	馬場 純一・樋脇 弘	6	33～37	1981
抗コレラ毒素抗体を用いた逆受身ラッセクス凝集反応法によるコレラ毒素および毒素原性大腸菌易熱性毒素の検出	小田 隆弘	〃	38～46	〃
サルモネラ2種と <i>Vibrio fluvialis</i> (Group F. <i>Vibrio</i> ; <i>Vibrio-like</i> Group, EF-6) が検出された一食中毒事例について	小田 隆弘・永井 誠 大久保順子・菅原 誠 村上 義久・松尾 利勝	〃	47～50	〃

題 名	著 者	号	頁	年
感潮域内におけるタンポン法によるチフス保菌者の追跡について	磯野 利昭・真子 俊博 西本 幸一	6	51~53	1981
1981年度におけるB型インフルエンザの流行とウイルスの抗原分析	馬場 純一・赤司 英雄	7	42~46	1982
インフルエンザウイルスの分離におけるふ化鶏卵法とMDCK細胞法の比較とA・H1型変異株(A/Fukuoka/C-9/81)検出に関する検討	馬場 純一・赤司 英雄	〃	47~49	〃
市販食肉, 生カキ, 貝柱, 河川水および井水からの毒素原性大腸菌の検出状況	小田 隆弘・中川 英子	〃	33~35	〃
市販食肉からの <i>Campylobacter jejuni</i> / <i>coli</i> の検出成績	小田 隆弘・中川 英子 大久保順子	〃	36~38	〃
河川水, 海水及び魚介類からの <i>Vibriofluviialis</i> (Group F <i>Vibrio</i> ) の分離	磯野 利昭・小田 隆弘 中川 英子	〃	39~41	〃
原因食品から神奈川現象陽性株が検出された腸炎ビブリオ食中毒について	磯野 利昭・小田 隆弘 中川 英子	〃	101~102	〃
福岡市で発生した2例のセレウス菌食中毒事例について	小田 隆弘・磯野 利昭 中川 英子・大久保忠敬 永井 誠	〃	103~106	〃
福岡市における腸管寄生原虫類の疫学的研究第1報 赤痢アメーバの家族内感染事例にともなう免疫診断法と染色法の検討	真子 俊博・赤羽 啓栄	〃	50~54	〃
福岡市における腸管寄生原虫類の疫学的研究第2報 散発下痢症者の腸管寄生原虫類調査結果	真子 俊博	〃	55~59	〃
福岡市における健康人からの腸管寄生虫卵の検査成績	真子 俊博・原田 秀昭	〃	107~109	〃
1982~1983年にかけての福岡市におけるA・H3型インフルエンザの流行とウイルスの抗原分析並びに流行前後の住民の抗体保有状況	赤司 英雄・梶原 一人	8	29~34	1983
昭和57年度における福岡市成人女子の風疹HI抗体保有状況	梶原 一人・赤司 英雄	〃	81~85	〃

題 名	著 者	号	頁	年
抗一毒素原性大腸菌易熱性毒素 (L T) 特異抗体および抗コレラ毒素 (C T) 特異抗体を用いた逆受身ラテックス凝集反応法による L T または C T の識別検出法	小田 隆弘・中川 英子	8	35~42	1983
毒素原性大腸菌耐熱性毒素 (S T) の免疫学的検出法の検討—S T の精製と免疫用合成抗原の作製—	小田 隆弘	〃	43~49	〃
毒素原性大腸菌が検出された食中毒事例について	小田 隆弘・磯野 利昭 中川 英子・原田 秀昭	〃	86~90	〃
福岡市における海外旅行者の病原微生物検出状況 (1982年度)	真子 俊博・中川 英子 西本 幸一・大塚 英樹	〃	91~93	〃
赤痢の集団発生に毒素原性大腸菌, <i>Vibrio cholerae</i> non O1 の混合感染がみられた韓国旅行者集団下痢症例	真子 俊博・中川 英子 西本 幸一・大塚 英樹	〃	94~98	〃
<i>Shigella sonnei</i> による赤痢集団発生事例について	中川 英子・真子 俊博 西本 幸一	〃	99~101	〃
昭和58年度の福岡市における A・H1N1 型インフルエンザの流行とウイルス学的検査成績 (HI, NI, CF 試験) について	赤司 英雄・梶原 一人	9	25~31	1984
昭和58年度における福岡市成人女子の風疹 HI 抗体保有状況と市販 ELISA キットによる抗体測定	梶原 一人	〃	71~74	〃
福岡市における腸炎ビブリオ食中毒発生状況 (S. 45-57年) と市販刺身等の細菌検査成績	磯野 利昭・大隈 英子 小田 隆弘・大久保忠敬	〃	39~42	〃
輸入淡水魚における病原ビブリオの疫学的研究 第1報 輸入熱帯魚からの non-O1 <i>Vibrio cholerae</i> の分離状況と毒素産生性	真子 俊博	〃	32~38	〃
海外旅行者下痢症 “混合感染例” I 4 種血清型 <i>Vibrio parahaemolyticus</i> が分離された 1 例	村尾 利光・真子 俊博 西本 幸一	〃	61~63	〃

題 名	著 者	号	頁	年
海外旅行者下痢症“混合感染例” Ⅱ 赤痢，サルモネラが検出された集団事例	真子 俊博・村尾 利光 西本 幸一	9	64～66	1984
昭和55～58年度に分離したヒト由来サルモネラの血清型と薬剤耐性	村尾 利光・真子 俊博 西本 幸一	〃	67～70	〃
昭和59年度の福岡市におけるB型インフルエンザの流行とウイルス学的検査成績（HI、CF試験）について	梶原 一人・赤司 英雄 大隈 英子	10	25～29	1985
辛子蓮根によるボツリヌスA型食中毒事例について	磯野 利昭・梶原 一人 大久保忠敬・佐藤 泰敏	〃	61～64	〃
魚介類における病原ビブリオの分布	磯野 利昭・梶原 一人 大久保忠敬	〃	65～69	〃
過去7年間の海外旅行者からの病原細菌と寄生虫検出状況	真子 俊博・磯野 利昭 大隈 英子・村尾 利光 西本 幸一	〃	68～69	〃
ミドリガメが感染源となったパラチフスBの家族内感染事例と福岡市内で販売されているミドリガメのサルモネラ保菌状況	村尾 利光・真子 俊博 西本 幸一	〃	70～71	〃
昭和60年度の福岡市におけるA・H3N2型インフルエンザの流行とウイルス学的検査成績	梶原 一人・門司 慶子 村上 直海	11	29～33	1986
福岡市住民の日本脳炎ウイルス中和抗体調査成績	梶原 一人・門司 慶子 村上 直海	〃	34～38	〃
食中毒様患者からの <i>V. cholerae</i> O-1分離例について	磯野 利昭・大隈 英子 大庭三和子・大久保忠敬 佐藤 泰敏	〃	69～73	〃
河川水・海水より検出された <i>V. cholerae</i> non-O1 の毒素産生性	渡部 高貴・真子 俊博 村尾 利光	〃	39～43	〃
井戸水からのエロモナス属の分離状況及びその病原性	大庭三和子・真子 俊博	〃	44～46	〃
昭和60年度に福岡市で発生した <i>Shigella sonnei</i> の集団事例 Ⅰ. 南区で発生した集団赤痢	村尾 利光・真子 俊博 渡部 高貴・大庭三和子 他4名	〃	59～61	〃

題 名	著 者	号	頁	年
昭和60年度に福岡市で発生した <i>Shigella sonnei</i> の集団事例 2. 博多区, 東区で発生した集団赤痢	渡部 高貴・真子 俊博 大庭三和子・村尾 利光 他4名	11	62~65	1986
博多湾のコレラ菌検出事例	村尾 利光・真子 俊博 渡部 高貴・大庭三和子 磯野 利昭・大隈 英子	〃	66~68	〃
福岡市における5歳未満児の日本脳炎中和抗体保有状況	馬場 純一・松隈 慶子 佐藤 泰敏・楠本 五郎 中川 由子・笠 瑠子 西岡 和男	12	27~30	1987
1987年1月に福岡市で発生したA・H1型インフルエンザの流行について	馬場 純一・松隈 慶子	〃	137~140	〃
6種血清型が混在した腸炎ビブリオ集団食中毒事例	梶原 一人・村上 直海 大久保忠敬	〃	131~133	〃
保存中のす焼うなぎにおける青緑色斑点からの <i>Pseudomonas</i> の分離	梶原 一人・村上 直海 大久保忠敬・井樋美詠子	〃	134~136	〃
福岡市における腸管寄生原虫類の疫学的研究 第3報 赤痢アメーバの検査法と診断基準についての提案	真子 俊博・渡部 高貴 赤羽 啓栄	〃	31~41	〃
福岡市における腸管寄生原虫類の疫学的研究 第4報 過去10年間の赤痢アメーバ及び寄生虫検査成績	真子 俊博・渡部 高貴	〃	42~47	〃
福岡市における腸管寄生原虫類の疫学的研究 第5報 補体結合反応によるアメーバ症診断の評価	渡部 高貴・真子 俊博	〃	48~52	〃
<i>Vibrio damsela</i> が分離された散発下痢症例	真子 俊博・渡部 高貴 奥野 隆子・松崎千登勢	〃	141~143	〃
日本脳炎ワクチン未接種児における中和抗体保有状況	馬場 純一・門司 慶子 佐藤 泰敏・楢松 洋一 石原 理生・吉本 雅彦 坂本 雅子・西岡 和男	13	31~36	1988
1988年1月に福岡市で発生したインフルエンザの流行について	馬場 純一・門司 慶子	〃	119~123	〃

題 名	著 者	号	頁	年
海水浴場水域におけるふん便性大腸菌群測定法の検討	梶原 一人・村上 直海 大久保忠敬	13	27～30	1988
薬湯の大腸菌群について	梶原 一人・村上 直海 大久保忠敬	〃	115～118	〃
輸入熱帯魚からの病原ビブリオ検出状況	大隈 英子・真子 俊博 渡部 高貴・大庭三和子 村尾 利光	〃	37～41	〃
輸入熱帯魚からの <i>Aeromonas, Plesiomonas</i> 検出状況	渡部 高貴・真子 俊博 大隈 英子・大庭三和子 村尾 利光	〃	42～46	〃
徳之島産アカマタに多数検出されたドロレス顎口虫 <i>Gnathostoma doloresi</i> 幼虫	真子 俊博・渡部 高貴	〃	47～52	〃
赤痢アメーバ染色（鉄ヘマトキシリン，トリクローム，コーン）の比較	真子 俊博・渡部 高貴	〃	53～59	〃
糞線虫が検出された1事例	渡部 高貴・真子 俊博	〃	124～127	〃
福岡市におけるインフルエンザA・H1N1型ウイルス分離状況と分離株の抗原分析結果（1988～1989）	馬場 純一・黒木 将仁	14	101～106	1989
サルモネラ食中毒における保菌者の追跡調査	梶原 一人・大庭三和子 村上 直海・大久保忠敬	〃	97～100	〃
博多湾より分離したイナバ因子を持つnon-01 <i>Vibrio cholerae</i> の血清学的検討	真子 俊博・渡部 高貴 村尾 利光	〃	25～29	〃
生ウニに添加した <i>Shigella flexneri</i> 2 a の消長	村尾 利光・真子 俊博 渡部 高貴・大隈 英子 吉本 雅彦	〃	30～35	〃
福岡市における健康成人尿からの陸トリコモナス検出状況	渡部 高貴・真子 俊博	〃	36～39	〃
バングラデッシュから来日した家族より赤痢アメーバ，パラチフスAが検出された事例	渡部 高貴・真子 俊博	〃	107～109	〃

理化学課

題 名	著 者	号	頁	年
合成抗菌剤の高速液体クロマトグラフィーによる分析法について (第1報)	山崎 哲司・広中 博見	5	96~99	1980
従属栄養細菌の生長を利用した海域の富栄養化度の測定について	高野 昭男・藤本 和司 吉武 和人	〃	100~104	〃
博多湾における栄養塩負荷と生物利用の関係	吉武 和人・藤本 和司 高野 昭男	〃	105~109	〃
血中重金属について	宮原正太郎・西本 幸一 榑 洋子	〃	110~112	〃
居住域内のクロロデン汚染状況について	林 清人・藤本 喬 佐藤 泰敏	6	54~57	1981
食品中の臭素酸カリウム分析上の問題点について	古野 善久・近藤 久幸	〃	58~59	〃
食品中の臭素酸カリウム使用量の推定について	古野 善久・近藤 久幸 藤本 喬・宮内 賢二 大石 義也	〃	60~64	〃
昭和55年度し尿浄化槽放流水の水質検査結果について	広中 博見・佐々木康江	〃	65~69	〃
パーソナルコンピュータ (PC-8001) を使用したデータ処理システムの実験室での使用例を中心としたN-BASICによるプログラム集	広中 博見・大隈 俊之 藤本 和司・井上 哲男 宮原正太郎・小寺 信 中村 正規	〃	70~103	〃
ワイン中の亜硝酸・硝酸イオンの分析法について	中村 正規・藤本 喬 近藤 久幸	7	60~63	1982
博多湾の富栄養化の現状-I 藻類の生理特性と生物培養試験による富栄養化の把握	吉武 和人・西田 政司	〃	64~71	〃
博多湾におけるビタミンB <sub>12</sub> の分布	吉武 和人・西田 政司	〃	72~74	〃
福岡市内河川水中直鎖型アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウムの定量	大隈 俊之	〃	75~80	〃
三点比較式臭袋法による悪臭調査の予備実験	小寺 信・西原 美子 井上 哲男	〃	81~82	〃
紫外線吸光度法による福岡市内河川の有機汚濁量の推定-BODとの相関について	藤本 和司	〃	83~92	〃

題 名	著 者	号	頁	年
海域並びに感潮域のMBODの測定に関する検討	高野 昭男	7	93~96	1982
ひ素の直接原子吸光定量法について	宮原正太郎・石橋 俊雄	〃	97~99	〃
ビルにおける防錆剤の使用状況について	須佐 幹二・佐藤 泰敏 山本 泰寛	〃	110~111	〃
福岡市内製造・販売の食品中のプロピレングリコールの使用状況について	藤本 喬	〃	112~115	〃
パーソナルコンピュータ（PC-8001）によるデータ処理について	広中 博見・藤本 和司 高野 昭男・小寺 信 中村 正規	〃	116~155	〃
畜肉中のオキシテトラサイクリンの検出について-生物学的検査と化学的検査の併用-	藤本 喬・小田 隆弘	8	50~57	1983
リンデン食中毒における摂取量とその症状について	広中 博見・他11名	〃	58~64	〃
博多湾の有機汚濁の評価と栄養塩類によるAGP値の予測	吉武 和人・西田 政司	〃	65~71	〃
AGPを用いた、河川が博多湾に負荷する有機汚濁の評価	吉武 和人・西田 政司	〃	72~75	〃
フィルターバッチによる福岡市における二酸化窒素の分布について	井上 哲男・伊藤 正	〃	76~79	〃
こんにゃく粉添加辛子明太子中の亜硝酸・硝酸の消長について	寺崎 幸博・川添 勇 他6名	〃	102~104	〃
福岡市に流通する食品中の残留農薬検出事例について	中村 正規・藤本 喬 林 清人・山崎 哲司	〃	105~119	〃
缶入り飲料及び缶詰におけるスズの溶出状況について	森部 昌江・藤本 喬 近藤 久幸・新谷 雅宏	〃	120~124	〃
博多湾における植物プランクトンの出現状況	吉武 和人・西田 政司	〃	125~132	〃
パーソナルコンピュータ（PC-8001）によるデータ処理について	広中 博見・井上 哲男 大隈 俊之・中村 正規	〃	133~161	〃
2, 3, 7, 8-テトラクロロジベンゾ-P-ジオキシンのガスクロマトグラフ/質量分析における分離定性について	広中 博見	9	43~49	1984



題 名	著 者	号	頁	年
ペルオキソ二硫酸カリウム法による全りん分析の自動化	藤本 和司	9	50～56	1984
博多湾の主要出現藻類のC, N, P, クロロフィル a 組成について	西田 政司・高野 昭男 藤本 和司	〃	57～60	〃
加工食品の残留農薬調査 (第1報)	中村 正規・藤本 喬 林 清人	〃	75～79	〃
水田に散布されたBHCによる稲及び土壌の汚染状況について	中村 正規・藤本 喬 他4名	〃	80～85	〃
福岡市に流通する温州みかんのヒ素と鉛について	久保倉宏一・藤本 喬 古野 善久・小田 隆弘 権藤 勝善	〃	86～90	〃
乾海苔におけるマラカイトグリーンの微量分析法	尾崎 博・広中 博見 藤本 喬	〃	91～93	〃
博多湾における植物プランクトンの出現状況 (昭和58年度)	西田 政司・高田 文子	〃	94～102	〃
各種抗菌性物質の溶解性と抽出溶媒の選択および検査状況について	森部 昌江・藤本 喬	10	30～36	1985
富栄養化海域でのクロロフィル a 濃度と環境因子の解析	古川 滝雄・西田 政司 高野 昭男	〃	37～46	〃
<i>Skeltonema costatum</i> の各態窒素, リンの利用能について	西田 政司・高田 文子	〃	47～49	〃
<i>Prorocentrum minimum</i> の各態窒素利用能について	西田 政司・高田 文子	〃	50～52	〃
分子量分画による <i>Prorocentrum minimum</i> 培養ろ液に含まれる <i>Asterionella glacialis</i> の増殖促進物質の検索	高田 文子・西田 政司	〃	53～55	〃
硝酸塩還元酵素を用いた硝酸態窒素および総窒素の自動分析化	高野 昭男・村瀬 茂世 佐伯ゆかり・古川 滝雄	〃	56～59	〃
福岡市内に流通する生乳及び市販乳中の残留農薬調査結果	中村 正規	〃	72～78	〃
福岡市に流通する食品中の微量重金属含有量 (第1報) - 生鮮野菜・果実中の各種微量重金属含有量 -	久保倉宏一・古野 善久	〃	79～88	〃

題 名	著 者	号	頁	年
福岡市に流通する食品中の微量重金属含有量 (第2報) - クロレラ食品中の各種微量重金属含有量 -	久保倉宏一・近藤 久幸	10	89~91	1985
ソルビン酸が検出された菓子・そうざいについての一考察	尾崎 博	〃	92~95	〃
博多湾における植物プランクトンの出現状況 (昭和59年度)	高田 文子・西田 政司	〃	96~103	〃
キャピラリーカラム直結型GC-Massによる 小麦製品中残留エチレンプロマイドの確認法	中村 正規	11	47~53	1986
セツバックC18カートリッジカラムを用いた 除草剤の分析	安増 真一・高田 文子	〃	54~57	〃
みょうばんを使用した皮むき里芋における SO <sub>2</sub> 産出事例	小田 隆弘・山崎 哲司 福本 洋一・中村 正規 古野 善久・高須賀一彦 桃崎 悦子	〃	74~79	〃
福岡市に流通する食品中の微量重金属含有量 (第3報) - 米, 粉末清涼飲料および調製粉 末乳中の各種微量重金属含有量 -	久保倉宏一・加茂 和義	〃	81~86	〃
博多湾における植物プランクトンの出現状況	古川 滝雄・高田 文子	〃	87~94	〃
那珂川における底生動物の出現状況 (昭和60年)	古川 滝雄	〃	95~99	〃
総窒素・総りんりの同時分解および定量法の河 川水への応用例	村瀬 茂世・佐伯ゆかり	〃	100~103	〃
アルカリ性ペルオキシ二硫酸カリウム分解を 用いた特定事業場排水中の総窒素定量法	村瀬 茂世・佐伯ゆかり	〃	104~106	〃
オキシダント計校正用オゾンガスの吸尿管に よる測定条件について	井上 哲男・木内 佳伸	〃	107~109	〃
博多湾海水, 底質における5-ニトロベンツイミダ ゾール, 1, 5-, 1, 8-ジニトロナフタレン, 4-メチル- 2-, 2-メチル-4-ニトロアニリンの環境調査	安増 真一・高田 文子	〃	110~114	〃
分光光度計を用いた野菜漬物中許可タール色 素の簡易定量法	桃崎 悦子・藤本 喬	12	53~59	1987
高速液体クロマトグラフィーによる食肉中のニコ チン酸及びニコチン酸アミドの迅速定量法の検討	藤本 喬・森部 昌江	〃	60~62	〃

題 名	著 者	号	頁	年
食用タール色素を含有する清涼飲料水のL-アスコルビン酸およびエリソルビン酸の確認法	藤本 喬	12	63~66	1987
コレステロールを指標とした卵成分含有アイスクリーム中の乳脂肪推定法	久保倉宏一	〃	67~71	〃
ブロックバス分解台とインドフェノール比色法を用いた乳製品の無脂乳固形分の測定法	久保倉宏一	〃	72~76	〃
小麦粉中に残留するデイルドリン・マラチオン・フェニトロチオンの抽出法の比較	中村 正規	〃	77~80	〃
パーソナルコンピューターを用いた食品化学検査成績処理システムの開発 (第1報)	久保倉宏一	〃	81~96	〃
パーソナルコンピューターによるガスクロマトグラフ信号処理システムの開発	中村 正規	〃	97~100	〃
高速液体クロマトグラフィーを用いたフグ毒検査結果とクッキングロス実験成績	小田 隆弘	〃	101~110	〃
米の成分規格試験におけるサンプル量の検討	加茂 和義	〃	111~114	〃
底生動物による那珂川および瑞梅寺川の水質評価に関する研究	古川 滝雄	〃	115~122	〃
ヘッドスペースGC/MS-MFおよび溶媒抽出GC/MS-MSによる1, 1-ジクロロエチレン, 1, 2-ジクロロエタンの定量方法	松原 英隆	〃	123~125	〃
事業場排水中の1, 1, 1-トリクロロエタン, トリクロロエチレン, テトラクロロエチレンの定量におけるヘッドスペース・GC法および溶媒抽出・GC法の検討	松原 英隆・池田 嘉子	〃	126~130	〃
清涼飲料水の成分規格検査結果	加茂 和義	〃	163~166	〃
コレステロール及び脂肪酸組成データを用いたアイスクリーム類中粗脂肪の主成分分析法による分類	久保倉宏一	13	60~65	1988
福岡市における食品中のPCB残留量の調査結果-牛乳および生乳-	久保倉宏一・広中 博見 木内 佳伸	〃	66~75	〃
アミノアルキルカラムを用いた液体クロマトグラフィーによる食品中のソルビン酸, 安息香酸, デヒドロ酢酸の検出法	中村 正規・渡邊美千代	〃	76~80	〃

題 名	著 者	号	頁	年
マススペクトルデータ処理プログラムの開発	中村 正規	13	81~91	1988
順相高速液体クロマトグラフィーによる油性食品中の $\beta$ -カロチンの定量	桃崎 悦子・中村 正規	〃	92~95	〃
高速液体クロマトグラフィーによる食肉および食肉製品中のニコチン酸・ニコチン酸アミドの定量法について	桃崎 悦子	〃	96~99	〃
陶器からの鉛及びカドミウムの溶出試験	加茂 和義	〃	100~104	〃
可視検出器を用いた高速液体クロマトグラフィーによる食品中の総エリソルビン酸の定量	木内 佳伸・久保倉宏一	〃	105~109	〃
短期熟成味噌製造における漂白料(SO <sub>2</sub> )使用法の検討	渡邊美千代・藤本 喬 古野 善久・他2名	〃	110~113	〃
アジの唐揚げによるヒスタミン食中毒事例	小田 隆弘・中西 和道	〃	128~132	〃
結論を誰にでも分かるようにするデータ処理プログラム	古川 滝雄・安増 真一	〃	159~169	〃
産卵鶏へ微量投与した場合のナイカルバジンの卵中の消長	大石 義也・小田 隆弘	14	40~44	1989
高速液体クロマトグラフィーによる食品中のサッカリンの分析	木内 佳伸	〃	45~52	〃
冷凍えびの亜硫酸塩処理における残存SO <sub>2</sub> 量の消長について	本田 啓子・小田 隆弘	〃	53~59	〃
高速液体クロマトグラフィーによる食品中の合成保存料の同時分析法と保存料の使用状況について	渡邊美千代・中村 正規 中西 和道	〃	60~67	〃
カーテン中の防災加工剤Tris(1,3-dichloroisopropyl) phosphateの分析	桃崎 悦子・中村 正規	〃	68~74	〃
煮沸による地下水中の低分子有機塩素化合物の除去とその動力学的解析	江崎 光洋・松原 英隆	〃	74~81	〃
福岡市内河口の底生動物の分布に関する研究	古川 滝雄・小野 英樹	〃	82~95	〃
ビル受水槽に混入した白蟻駆除剤によるビル給水系統の汚染状況について	中村 正規・尾中 正好	〃	110~116	〃